

タカの願望達成ストーリー♪

ご挨拶

タカです^^

この度は、“タカの願望達成ストーリー”をご覧頂きありがとうございます。
これは僕の過去をストーリー風にまとめたものです。
最後のほうに、素敵なプレゼントがありますので、ぜひ最後まで
ご覧頂きたいと思います。

総ページ数は47ページあるので、時間を分けて見て頂くか
一気に読んで頂いても良いと思います。
くれぐれも最初を飛ばして最後しかみないと言うのは、禁止ですよ（笑）

本編に入る前に、ひとつだけ・・・

メルマガでお話している口調と今回は全く違う口調になっています。
いつもと違って、ちょっとワイルド風？

ぜひ最後までお付き合い頂けたらと思います。

では、20年前にタイムスリップ開始～！

「はじめに」

僕は専門学校だった頃、過呼吸症候群になった。

理由は定かではないが、突然やってくる
呼吸の苦しみは恐ろしく辛かった。

その後、目にも異変が起き始めた。

空を見上げると、青空がチカチカして見えて
次第にミミズの這ったような模様が現れて来たのだ。

これにはかなり恐怖を感じ、速攻で医者に行った。

初めは眼科。しかし精密検査をしても異常は見つからない。
眼科の先生は脳に原因があるかもしれないからと
脳神経外科病院に紹介状を書いてくれた。

そして精密検査。MRI という装置に縛り付けられ
20 分ほどじっとしていた。そして検査の結果・・・

異常なし（汗）

医者が言うには、精神的なものだと思うから
症状が出たら、大人しく安静にするしかないと言われてしまった。

そして専門学校を卒業。

バブルが弾けるのが近づいていたが、就職した会社は
とても忙しく、激務だった。
技術社員として入ったので、入社して3ヶ月で同期の社員6人ほどが
工場長直々に技術的な勉強をしてもらえる事になったのだ。

勉強は朝8時30分～夕方5時30分まで。

最初は、お金をもらいながら勉強させてもらえるなんて
なんてラッキーなんだと思った。

しかし・・・

それも長くは続かなかった。

なぜなら、段々と工場長の態度が変わり内容も難しくなり
課題を与えられるようになった。

ここは電気・電子系の会社だったので図面を見て、パターン設計を
するように命じられた。学校である程度は学んでいたもので
多少の知識はあったものの、この課題は僕にとっては、
あまり準備が出来ないままフルマラソンを走れと
言われているようなものだった。

一瞬、やりたくないと言いそうになったが
会社を首になるのを恐れて、一生懸命に歯を食いしばり頑張った。

この作業は深夜に及ぶこともあった。
日付が変わっても、会社にもりほとんどの社員が帰った中で
新入社員6人が、黙々と机に向かって作業をする姿は今、思うと
異質の光景だったと思う。

それだけ働いても研修中という事で、残業代は一切出ない。

作業を強制されている訳ではないが、課題の期限は決まっていたので出来なければ、深夜になって徹夜してでも終わらせなければならない。

ただ、その猛烈なプレッシャーのおかげか、学生の頃になった過呼吸は収まっていた。その事すら忘れしまうほどこの課題は恐ろしくハードルが高かったのだ。

趣味も、遊びも、夢も、恋愛も、すべてが後回しだった。
そんな事をする余裕すらなく、会社と家をただ単に往復するだけの日々。
それでも、せっかく入れた会社だからと言う僕の小さなプライドが
なんとか難関の課題を進める原動力になっていた。

その反面、僕は毎日自由に憧れながら働いた。

好きな事をしたかった。

趣味を思いきり楽しみたかった。

たまには定時で帰って、のんびりしたかった。

大好きな車やバイクに乗って旅行に行きたかった。

一度きりの人生が、ただやりたくもない仕事のために
遠ざかっていくと思うと、たまらなくむなしい気持ちになった。

20歳の僕の生命力が日々、少しずつ削れていくような気がした。

そして3ヶ月が過ぎた。
一応、課題はクリアしたものの工場長の判断で
生産課へ配属された。

2年間専門学校で専門の知識を学び、その学費を親が必死になって
働いて払ってくれたにも関わらず、僕は技術課ではやっていけないと
判断され、愕然と大きな挫折を味わった。

この2年間は一体なんだったのだろう？
深夜まで必死になって頑張り、努力したのになぜ？

僕は初めて、会社や社会の厳しさを目の当たりにした。

それから時はあっという間に過ぎ去り数十年が経っていた。

レイキヒーリングが、きっかけで天使リーディングを始める事になる。
たった1年で2人の有名霊能者に出会い、どちらも日本トップレベルの
実力の持ち主である。

そんな2人から、才能を見いだしてもらった僕は自分の使命を
知ることになる。

その使命とは・・・

少しでも多くの人に天使のメッセージを届けて
幸せな人生を過ごしてもらうことである。

そのためには、まず自分が幸せになり生き証として
皆のお手本にならないといけない。

実際に天使のメッセージを聞いて、それに従い行動を続けた結果
僕は本物の幸せを手に入れる事ができた。

天使と出会う前は、波乱万丈のまるでドラマのような人生を過ごしていた。

あの頃の苦しみや辛さ等は、僕の人生で絶対に忘れたくないものの一つだ。

だから完全に忘れてしまう前に、僕が歩んできた道のりを詳しく書き残していこうと思う。

こんな、ごく普通の元派遣社員でも天使さんのメッセージを聞き本物の幸せを手に入れ、毎日楽しく笑顔で幸せを感じながら過ごす事が出来る！と、希望を持ってもらえたら嬉しい。

「僕の思考から雇われるという考えが消えた」

子供の頃は、父の影響もあって自動車整備士になるのだと確信していた。それは父の姿を見てカッコイイと思っていたし自分もあんな風になりたいと思っていたからだ。

高校までは比較的真面目で恥ずかしがり屋だった。先生や親の言う事を信じていたので、あまり無茶な事はしなかった。

スポーツテストで良い成績が出て褒められた時は素直に嬉しかった。中でも懸垂は学年で1位をとった事もあった。高校2年までは、虫歯ゼロで表彰されたこともある。

小心者だったので、学校のルールは厳格に守った。たったひとつだけを除いて・・・

それがバイクに乗る事だった。高校生になると、バイクを乗り回した。ただ、免許取得はせずクローズド・コースのみと言う条件付だったがそれでも、右手でアクセルを少し捻るだけで、スルスルと自分の思ったように進んでくれるバイクは僕の事を心から理解する友達のように思えた。

ただ乗れるだけで自然と笑顔になり幸せだった。

高校3年になり自動車整備の学校に行こうと思った。しかし、意外な事に父に猛反対された。

「自動車整備業界に未来はない」と言われてしまったのだ。

今でこそ、電気自動車やハイブリッドカーが増え、故障もほとんどしなくなっているから、父の言ったことが分かるが当時はまだそんな時代になるとは思ってなかったから、とても悲しかった。その後、父から電気・電子系の知識を身につければ将来安泰と言われ言われるがままに近くの専門学校に通うことにした。

高校の担任からは大学の推薦も受けられると言われたが試験は1月。合格発表も含めると早くも2月になってからではないと自動車学校に入学できない。

頑張っても3月の卒業前には免許取得が不可能と分かり自動車の免許を1日も早く取得したかった僕は、推薦を丁重にお断りして専門学校を12月に受験。

そして見事合格。
12月末には速攻で自動車学校へ入学していた。

高校時代は、陸上部で短距離のトレーニングに明け暮れた。日曜になると父に連れられ、モトクロスをしていた。モトクロスとは舗装されていない不整地のでこぼこやジャンプセクションをいかに速く走るかを競う競技だ。

僕はバイクに乗れるのが楽しくて仕方なく朝早くから夕方、日が沈むまで走り回っていた。

専門学校に入ってから、ノートパソコンを1人1台与えら授業で使われる事になった。

とは言っても当時は1990年。
ウインドウズが登場する前だったから、電源を入れて友達からフロッピーディスクに入っている簡易ゲームを楽しむ毎日。

パソコンで出来る事はほとんどなく、ただ持ち歩いているだった。
生徒の中にはプログラムなどを作るものも居たが・・・。

専門学校に行ったおかげで、通学のためにバイクの免許も取得。
幸運な事に、学生の分際で車とバイクを自由に乗り回す事が出来た。
それも全て父のおかげだ。

父はバイクに乗れない奴は男じゃない！という考えを持っていたので
僕を早い時期からバイクに乗せてくれた。

当時はスポーツカー全盛の時代とあって週末になると
車で山へ走りに行った。おかげで運転もうまくなり、
ここでは書けないような無謀運転をした事もある。

当時乗っていた車は、ワンダーシビックという1500CCの
自然吸気エンジンだ。自分の手足のように走ってくれたので
一番、思い入れの深い車だった。

次にスターレットEP71。走り屋の間では定番だった車だ。
そして念願のR32スカイライン（タイプM）。
たった1晩で、ガソリントankを空にするほど走りまくった。

走る仲間も出来て、勉強も楽しかったし、資格もいくつか取得。
恋もしたし、僕は青春時代を思いきり楽しんだ。

専門学校で過ごす時間はあっという間に過ぎ、2年になって
就職を意識した。

バブル末期ではあったが、好景気が続いていたので
僕は家から近いという理由で、会社を決めてしまった。
本当は数社からお誘いがあったのだが・・・

この時、僕は有頂天になっていた。
僕には才能があつていくつもの会社が、僕をほしがっていると・・・。

しかし実際に就職し社会の厳しい洗礼を受けることになる。

僕は働いて、帰ってきてご飯を食べて寝るだけの
家畜同然の生活を日々、送っていた。

技術社員として入社したので、朝早くから夜遅くまで
働いた。会社から命令された事には一切逆らえなかった。
同僚も、この厳しさに耐えきれず辞めていくものが出始めた。

僕はそのまま定年になるまで 40 年間、この会社にこき使われて
働くだけの人生だと思うと絶望と恐怖が心を支配した身震いがするほど
とても怖かった。まさに奴隷の世界だと思った。

現に上司は、僕たち社員を人としてではなく、ただ言う事を聞くだけの
ロボットにしか思っていないと、風の噂で聞いた時は
怒りと絶望で、頭がおかしくなりそうだった。

専門学校での楽しい思い出はすっかり忘れていた。

専門学校 2 年生になると、学生たちの話題はどこに就職するのか？
という話で持ちきりだった。

合同企業説明会、面接の練習や、三者面談など・・・

僕もその流れには逆らえずに、皆と同じ方向へ進んでいった。
当時は、就職するのが当たりだと思っていた。
でも本音は、とても嫌で仕方なかった。

専門学校は午後 4 時過ぎには終わるから、家に着くのは
午後 4 時 30 分ごろ。その後は僕の自由時間だった。

バイクや車を洗ったり、近所の河川敷へ行っては

夕日を眺め、川の流れにうっとりしながら自然の中で
過ごす時間がとても楽しく幸せだった。

しかし就職してしまうと平日は、これらの事が一切出来なくなってしまう。
そんな危機感を感じてはいたものの、世間の流れには逆らえなかった。

就職こそしたものの、考えるのは自由を得るためには
どうしたら良いかを考えるばかりで、仕事に身が入らなかった。

そんな毎日だったから、仕事も転々とした。

しまいには不景気の波にもまれ、年齢も 30 代後半になり
正社員の道は完全に絶たれてしまった。

僕は、ない知恵を絞り必死になって考えた末、派遣社員への道を選
ぶことにした。

幸い、当時 39 歳にして再就職は出来た。
仕事も楽しかったし、人間関係も良好で待遇もよかった。
しかし、そこも企業の経営悪化と期間満了で、再度仕事を失う事になる。

唯一の希望でもあった派遣社員もダメになり、仕事を必死に探すも
希望する仕事には就けず、僕は落胆し疲れ果てていった。

僕の人生は 40 歳を目前にして早くも晩年にさしかかり
ただ死を待つだけの老人になったようだった。

とにかく今の現状から抜け出したかった。
そこで、ある決意をする。

ことごとく雇われる側での仕事が長続きしなかったり

解雇宣告を受けてしまう。やはり僕は、〇〇をするために
生まれて来たのだろうか・・・

もうやるしかない！！
〇〇に全精力を込めて、やっていくしかない。
これが最後の望みだった。

その〇〇とは・・・

“天使のメッセージを伝え少しでも多くの人に幸せになってもらう事”

とは言え、現実面で大きな壁にぶち当たった。
生活するためには、お金がいる。
これは避けて通れない道だ。

その時、ふと昔お師匠さんが言っていた言葉が頭の中に蘇った。

「タカさん！あなたが天使リーディングやヒーリングでお金をもらう事に
とても大きな抵抗があるようだけど、これはエネルギーとの交換なの。
お金をいただいて、その価値分のエネルギーを提供する。

これが天使さんの望んでいる事なのよ。法外なお金、たとえば1回のリーディングで10万や100万円もらったり、人を騙してお金をもらうのではなく、
受けてくれた人に満足してもらい、受けて良かったと喜んでいただく。
そのうえで、きちんとお金をいただくなら全く問題はないの。

この活動を専業にして生活しても良いのよ。天使界も、それは認めている。
なぜならタカさんの天使リーディングは、正真正銘の本物だから」

僕は、この言葉を思い出し気付いたら、うつすらと涙を浮かべていた。
すでに天使さんからのメッセージを受け取り、これまで派遣社員を

しながら、その空き時間に、依頼をしてくれる方にメッセージを伝えてきた。

ヒーリングも、数え切れないほどさせていただいた。

そして多くの喜びと感謝の気持ちをメールや電話で直接いただいた。

僕の心の中で、なんとなくだが空いた時間に少しするだけではなく
専業で活動する必要があると気付いてはいたのだが・・・

専業で行なうことへの、未知なる体験に対する恐怖が、それを拒んでいたのだ。
しかし強制的に専業でやるしかない境地に立たされたのだった。
僕は冷静になるために心を落ち着けて、なぜ今までアルバイトや派遣社員が
続かず、うまくいかなかったのかを聞いてみた。

その問いかけに、天使さんは、“やっとならち天使に、その疑問を投げかけてく
れた”と喜びながら、こう答えてくれた。

あなたが、これまで外で働き雇われて生きる事の、辛さや恐ろしさを
実際に体験し、その度に苦難を乗り越えてきましたね。あなたは
失望の淵から何度も立ち上がり、這い上がってきました。

あなたが、20歳の時に正社員で成功していたら、この世に生まれて来た
使命を忘れ、ごく普通のサラリーマンとして働くだけの人生で終わっていたで
しょう。そうではなく、あなたは私たち天使から届けられる愛と幸せがいつば
い入った光のメッセージを多くの人に届ける使命があるのです。

ですから、それに気付いてもらうために、様々な事をあえて経験してもらった
のです。体験から語られるストーリーほど、パワフルで真実味のあるものは
ありません。あなたは、これまで体験した辛さや苦しみをいかに乗り越え
真の幸せをどのように手に入れたのか？多くの人に伝えなければならないので
す。そして自由という素晴らしい世界を、世の中に伝えていきなさい。
それが出来るのが、タカさん！あなたなのですから。

僕はようやく覚悟を決め決断をした。
就職活動を一切停止し、天使リーディングとヒーリングに専念し、
僕の人生すべてをかけて“愛と幸せのメッセージ”を伝えていくと決めた。

もう僕の心に一切の迷いもすべて消えていた。

手始めに天使さんからのメッセージを伝えるために
ブログやメルマガの媒体を使う事にした。

同時に願望実現に関する法則（引き寄せの法則等）を使い
様々な事を学び自分のものとした。

幸いな事に1ヶ月ほどで、この活動は軌道に乗り
僕は最後の望みを掛けた勝負に勝利したのだ。
僕の人生から雇われるという考えが消えた。

過酷な労働と苦しみが消えた。

人間関係の悩みが消えた。

残業が消えた。

我慢や苦痛が消えた。

首になる恐怖が消えた。

期間満了の心配が消えた。

時間の縛りが消えた。

通勤の苦勞が消えた。

上司に良い顔をするのが消えた。

同僚に気を遣うのが消えた。

気付けば色々な義務がなくなり時間とお金がある程度、手に入った。
毎日が日曜日だ。

朝、起きたら1日が自由時間。
好きなように使える。

それまで抑えてきた気持ちが少しずつ沸き出して来て
今まで目の前にあった不幸の泉が跡形となく消え去り
代わりに、“幸せと自由の泉”が目の前に現れたのだ。

あのとき、天使さんが言っていた“自由と言う素晴らしい世界を
タカさん！あなた自身が体験し、その素晴らしさを多くの人に
伝えてください”と・・・

天使さんからのメッセージが今まさに現実のものとなったのだった。

僕は自由を手に入れた。

真の幸せを手に入れる事ができた。

これが本来、人がこの世に生まれ体験すべき事なのだと
心の中で非常に強く感じたのだ。

開放感いっぱいの何の制約もない自由な世界。

その先にあるのは・・・

本物の幸せという言葉には言い表せないほど
至福を感じる場所なのだ。

その幸せを静かに浸っていると、こんなメッセージを
天使さんが届けてくれた。

“開放しよう！！

これまで溜めてきた、あなたの不要なものを・・・
全て開放するのだ。

そう！そうやって全てを開放すると
そこには・・・

自由が待っている。

のびのびと気の向くままに自由を楽しもう！！

あなたの背中にも天使の羽根が生えてきた。

あなたは自由にどこにでも行ける。

自由の先にあるのは・・・

あなたしか行けない場所。

あなただけが分かる、懐かしいあの場所だ！

そこには・・・

あなただけの
幸せの空間が現れるのだ。

あなただけが入ることの許された
真の幸せの場所。

さあ、ほんの少しの勇気と期待を持って
いざ！あなただけの真の幸せな場所に行こうではないか！

「どこまでも続く自由と幸せな日々」

時間と言う自由を手にした僕は、
自分の思うがままに行動し楽しむ事にした。

ある時、自然豊かな緑に囲まれた温泉へ行った。
平日という事もあり、昼間はほぼ貸し切り状態。
居るのは老人だけだった。

お風呂上がりに、恒例のコーヒー牛乳を片手に
右手を右腰に手をかけ、ぐいっ！とひと飲みする。
乾いた喉に、キンキンに冷えたほんのり甘いココアの
あるコーヒーが体全体に行き渡った。

“うまい！！”

僕は思わず、心の中で叫んだ。

こうしている間にも、多くの人はやりたくもない仕事を
我慢しながらしているのだと思うと少し心が痛んだ。

休憩所で休んでいると、温泉客がなにやら話を
していた。いけないとは思ったが、聞き耳を立ててみた。

「俺は40年会社の為に尽くしてきた。
なのに最後は雀の涙ほどの退職金と花束ひとつだけ。
せっかくもらった退職金も、家の借金でほとんど消え
老後の生活はどうしたものか・・・

年金も少子化であてにならんし、もらえても俺の場合は
わずか数万円さ。この先、どうやって生きていけばいいのかね」

それを聞いた僕は、ふと現実に戻った。

少し前の僕も、会社に雇われていたら将来は
このおじいさんのようになっていたかと思うとブルブルと身震いがした。

せっかく温まった体も、この会話ですっかり冷えきってしまい
僕は温泉を後にしたのだった。

久しぶりに実家へ帰ってきた時、中学時代の友人と遊んだ。
数年ぶりの再会にお互い喜んだのだが、彼は当時よりも疲れた顔を
していた。ストレスで体重が、かなり減ったと言っていた。

彼もまた、会社員として日々一生懸命働いていた。

将来への不安と給料の安さに不満や愚痴をこぼしていた。

彼が一生、雇われる側に居る限り、この不満や愚痴がなくなる事は
ないだろう。

僕が彼に出来るのは、希望という道をさりげなく渡してあげる事だけだった。

「少しでも多くの人に幸せになってもらいたい」

僕は24時間自由という素敵なものを手に入れた。
おかげで、心にも余裕が生まれ、この幸せを
多くの人に味わってほしいと思うようになった。

仕事に追われていたころは自分の事で精一杯だったのだが
今は人のために何かをしようというのが、楽しくて仕方がないのだ。

僕と関わる人が、毎日楽しく自由に幸せを過ごしてもらえたらと
思っている。
このように書くと、信じてもらえないかもしれないが
これは僕の本音なので、仕方がない。

僕は名声や名誉には一切興味がない。

好きな事を好きなだけするだけの自由と豊かさがあり
健康で幸せであれば、それで良いと思っている。

「上昇気流に乗る家、父の商売マインド」

戦時中に父は生まれた。
父が生まれて2年後、終戦を迎える。

高校を卒業すると同時に陸上自衛隊に入り
数年間の訓練を経験した後に急遽、父の兄が経営する
自動車整備の仕事を手伝うことになる。

ちょうどバブルの最盛期もあって
店の利益が右肩上がりで業績を伸ばしていった。
父は家族のために朝早くから夜遅くまで働いた。

休みは日曜のみ。それ以外はずっと働き詰めだった。
父が仕事を終えて帰ってくるのは夜の10時か11時だった。

それから、ご飯を食べて風呂に入り
母に手伝ってもらいながら、資格をとる勉強をした。

その資格とは2級整備士。

自動車整備の会社を経営するには、2級整備士が1人
3級整備士が1人、最低でも居る事と決められている。

そして父は、自分の兄（経営者であり社長）を助けるために
夜遅くまで働き帰宅して勉強をして血の滲むような努力を重ね
資格を取得したのだ。

ただし学科だけでは、この資格を取得する事はできなかった。
経験が居るのだ。

詳しいことは分からないが一定時間の経験をして
やっと 2 級整備士の資格が与えられる。とその前に 3 級整備士の
取得もしないといけなかったらしい・・・。

父は激務の中で、同じ血の流れる兄の為に自分の命を捧げたのだ。
何という兄弟愛だろうか・・・。
ほとほと感心するばかりである。

無事に 2 級整備士の資格を取得し 3 級整備士は兄の奥さんが取得。
ようやく合法的にお店を経営できるようになり、父は益々忙しく
働いた。

僕が大人になってから聞いた話だが、父はあまりの仕事の忙しさに
昼飯を抜くことも、日常茶飯事だったらしい。

体を酷使し過ぎたせいか、床に落ちた工具を拾うのも
苦勞するほどだったらしい。
あの時は、大変な時代だったと話をしてくれた。

そんな激務が数年続いたある日の事。
父は無理がたたって入院をしてしまった。
胆嚢結石（たんのうけっせき）を発病し手術をする事になった。

当時はまだ、医療も発達していなかったので
父は、命の危険を感じたそうだ。

父曰く、まだ幼い僕（当時 5 歳）と妹（当時 3 歳）を母を残して
死ぬのか？と本気で思っていたらしい。

手術は、父のお腹を縦方向に15cmほどメスを入れて開き、結石を取り除くというものだ。お腹が相当痛むらしい。

幸運な事に手術は成功し、仕事に復帰できたのだがそれから30数年後に、大変な事になるとは父も予想していなかっただろう。

この件に関しては後ほどお話するとして、父は自動車整備の仕事をする中で、ビジネスの基本を自然と身につけて行ったらしい。

中には身につけなくても良かった事もあるのだが、まずは身につけてよかった事。

それは、“笑顔”とお客さまの気持ちになって接客する事が大切と話をしてくれた。

お客さまを、まずは笑顔で迎え、お客さまの要望をしっかりと聞いて要望以上の仕事をする事が大切だと教えてくれた。父は、そのおかげでお客さまの心をしっかりと掴み、店はどんどん繁盛していったのだ。

多くのお客さんが父を慕い信頼してくれた。

僕も今、父がしてきた事を見習って活動している。お客様に信頼してもらい、リーディングやヒーリングを受けてよかったと喜んで頂けるように・・・。

反対に身につけなくてもよかった事。それは“苦勞”だ。

父は僕に“若いうちに苦勞は買ってでもしろ”と毎日のように言っていた。苦勞してこそ、成功すると・・・

若い僕は、その言葉を素直に受け入れ信じた。
そのおかげで、僕が社会人になった際は案の定、苦労ばかりの人生が
待ち受けていたのだった。

そして苦労を買えば買うほど、不幸になっていき心身共に
疲れ果てていったのだ・・・。

さて今の父はと言うと、70歳を過ぎても仕事を続けている。

だが、つい最近大変な事が起きた。
実は、大腸癌だった事が判明したのだ。

あげくの果てに、腎臓近くの血管に1cmほどの腫れが見つかり
この血管が破れると、命が危ない。死に到る危険性が高い。

まずは大腸癌の手術を受けた。
人生で2回目のお腹を切られる手術だ。
父曰く、人生で2度もお腹を開かれるとは思ってなかったと
術後、笑顔で話をしてくれた。

この言葉を聞いて父には一生敵わないな！と思った（笑）

大腸のごく一部のみの癌だったので、そこを取り除き
手術は無事に成功した。他には転移していなかった。
その癌になった部分は、癒着していてカチカチに固まっていたらしい。
医者からは昔、腎臓結石の手術をした事が原因で、大腸の一部が
癒着していたらしい。

後は腎臓の血管の腫れが気になるところだが、定期的に検査をしながら
様子を見ることになった。

僕は父の人生をずっと見てきて、つくづくこう思った。

家族の為に飯を食わしていくために自分の体を酷使して頑張ってきた。

そんな父を僕は好きだし尊敬する。すごいと思う！

ただ、僕が父と同じように体を酷使して自分のやりたい事が全く出来ず働き詰めの毎日を過ごすのは、絶対に嫌だと思った。

父の体は癌に冒され、体はボロボロだ。
家族の為に一生懸命に働き飯を食わせてくれた事は
心から感謝しているが・・・

ひとつ不思議に思う事が実はある。

普通、あれだけの激務をこなして疲れ果てて帰ってくる父が
僕や家族に対して、不機嫌な顔を1度たりとも見せた事がない事だ。

朝7時から夜は8時9時、おそい時は11時まで仕事をこなして
仕事から帰ってくる父の顔は、いつも笑顔だった。

僕は思った。家族への愛が父を支えていると・・・
何度も言うように申し訳ないが、僕は父を尊敬している。

「地獄のような労働の日々」

僕が人生で一番危機感を感じていたのは雇われて働く事だった。

父が一生の大半を仕事に費やしたあげくの果てに胆嚢結石や大腸癌などになり体を酷使する事の恐ろしさを嫌というほど、目の当たりにしてきたからだ。

僕が経験した最初の労働は専門学校を卒業した 20 歳のときだ。

バブル末期だったが、働く会社は一切、不自由はしなかった。
学校を卒業すれば、会社に雇われ働くのが当たり前だと思っていた。

そして家から 10 分ほどにある、とある電気系の下請け会社に
正社員として入社をする。

待遇もそれなりも良くて、8 時間の基本労働と残業を数時間して
1 日で 10,000 円ぐらいにはなった。

当時の僕からしたら、10,000 円は大金だったし（バイクのタイヤが 1 本買える）
月末には税金等が引かれて 15 万円前後の給料が振り込まれた。

少し前まで学生だったので、こんな大金を手にする機会は
人生で初めての事で、最初は嬉しくて飛び上がって喜んだものだ。

技術社員として入ったのだが、最初は生産ラインを経験させられた。
ラインと言うのは、同じものがベルトコンベアで運ばれ、組み立てなど
同じ事を永遠と行なうものだ。僕は最初、なんて楽な仕事なのだと
喜んだものだ。

しかし、そんな喜びも長くは続かなかった。

何も考えずに出来る作業に、飽きて来てしまったのだ。
同じ物が流れ、同じ作業の繰り返し。

時間が経つのは、恐ろしいほど遅く感じ、まるで神様がいじわるして
時間を止めているのではないかと思うほどだった。

入社して3ヶ月が経ったころ、生産ラインでの経験もなんとか
こなす事ができるようになった。
相変わらず単純な作業に苦痛ではあったが・・・

ちょうどその頃、工場長の提案で僕たち技術社員として入社した
6人を技術研修させる話が舞い込んできた。
僕は生産ラインに嫌気がさしていたので、大喜びした。

翌日から、技術研修が始まった。
僕たち6人は、工場長から直々に電気・電子技術に関する専門知識を
学ぶ機会を与えられたのだった。

しかもお金をもらいながら、勉強させてもらえる事は
このうえなく楽だと思った。

しかし・・・

会社はそんなに甘くなかった。
この日から地獄のような日々が待ち受けていたのだ。

研修は基礎学習から始まり、電気・電子とは？から始まり
電気・電子に関する公式などを徹底的に学んでいった。

正直、学校で教えてもらうより、こうして現場の第一線で働いている
工場長の講義のほうが、遙かに分かりやすく面白かった。

ただし、研修も佳境に入り、ある大きな課題が与えられた。
それは電気・電子図面（A3ほどある）を見ながら、基板を起こすことだった。

分かりやすく言えば、見習いの料理人が2週間で
料理の鉄人に勝て！と言われたようなものだ。

多少の知識はあるものの、実戦の全くない“ひよっこ”が、
たったの2週間でプロに勝てるわけではないだろう。

ここで人生初の挫折を味わう事になる。

必死になって課題をクリアしようと努力したし、これ以上頑張れないと
言うぐらい頑張った。6人の“ひよっこ”たちは、この難解な課題をクリアする
ため深夜まで会社に残ることも、しばしばあった。夜中の2時、3時ぐらい。

しかも研修中と言うこともあって、残業代は一切出ないし
会社側は、残業は強制しないから帰っても良いと言う。
しかし定時で帰ったら、課題はどうてもクリアできない。

この2週間は地獄だった。睡眠もろくにとれないまま
土日も、家で課題をクリアすべく取り組んだ。

しかし、その努力もむなしく課題はクリアしたものの
技術社員とは使えないと判断されてしまった。

僕は技術社員失格の烙印を押されてしまった。
この時点で2年間の専門学校での努力が全て水の泡となって
一瞬で消え去ったのだ。

6人中、技術課に行けたのは4人。さらに4人中、後に2人は会社を早々に去ることになる。一人は過労で退社時に事故を起こし退職を余儀なくされた。

もう1人は、この過酷な労働環境に耐えられず転職した。

そして僕はというと、あの退屈な生産ラインに配属となった。解雇にならないだけよかったと自分を励まし毎日、来る日も来る日も同じ事の繰り返しの作業を我慢して続けた。

退職という文字が頭の中をよぎったが、会社を退職する勇気はなかった。なぜなら、多額の借金を背負っていたからだ。正社員になったのを良い事に、入社してすぐに200万円もする車をローンを組み買ってしまったのだ。

毎月3万円のローンに加えてボーナス時期は10万円。これが5年も続くのだ。この借金がなければ、こんな会社とつくに辞めていただろう。

しかし悪い事ばかりは続かなかった。この会社の子会社に3ヶ月だけ出向という形で行ってくれという話があり、それに従った。そこは規模こそ小さいものの、労働環境も良く雰囲気も素晴らしく良かった。上司も僕を丁重に扱ってくれて信頼してくれた。

それがとても嬉しくて、仕事をがむしゃらに頑張った。技術社員としては、失格となったが生産ラインをまとめるリーダーとして抜擢され上司からの評価は益々良くなっていった。

会社の業績も良かったし、残業は多くても1時間か2時間に減ったので本社に比べてずっと働きやすかった。リーダーに抜擢されてからは給料も上がり、ボーナスは7月に銀行振り込みで8月にも夏休み前に現金で支給された。

夏休み前に封筒に入った30万円近くの札束を手にした時は
なんとも気持ちが良いものだった。
しかし待遇はよかったが、危険がいつも付いてまわった。

それは工場で使用する鉛。
この工場は半田付けという作業がメインの職場だった。

半田付けをする鉛からは煙が立ちこめ、工場の換気はフル稼働していた。
しかし、それで全てが安全と言うわけでない。(法律で定められる設備は導入されているが・・・)

この鉛からの煙と言うのは実にやっかいな代物で、皮膚を通して体に入って
悪さをするからだ。特に大量の鉛を含んだ半田槽という電子基板に付いた
数々の部品を次々と半田付けする機械のメンテには危険が伴う。

カバーを定期的にかけて、半田カスというゴミをよける仕事があるのだが
常に鉛からの煙が立ちこめ、それを吸うと体内に蓄積して内臓疾患を起こす
可能性が高くなる。安全マスクは当然、着用するがある一人の上司が
それが原因か定かではないが、腎臓に異常が見つかり薬を飲んでいる話を
聞いて、身震いがした。

僕もあと10年もすれば、この上司のようになるかと思うと
怖くてたまらなくなった。

＊現在は安全管理が徹底され、法律に触れるような事にはなっていないらしい。

それでも高額なローンがまだ残っているので、すぐに辞める事は
出来なかった。と同時にある資格をとってから会社を辞めようと思ったのだ。

技術社員では落第。そしてもう正社員として人に雇われるのは2度と
ごめんだ。という思いで起業したいと思うようになった。

当時、父のお客さんが税理士をしていて
独立して年収1千万を超える収入があると知り、
適性も考えずに資格を取得するべく、働きながら猛勉強を開始する。

まずは税理士事務所で働く必要がある。そのためには資格がいる。

日商簿記2級取得が最低条件と聞かされて、3年掛けて通信教育で資格を取得。
その頃にはローンも終わり、いよいよ退職届けを出した。

無謀にも次の内定も決定しないまま・・・

これが後になって、僕自身の才能を開花させる事になるとは
思いもしなかったが・・・。

この会社に入って、あれほど嫌だと思っていた父が経験した
過酷な労働以上の労働を自分が経験する事になってしまった。
なんとも皮肉なものである。

「子供達の笑顔は太陽のように眩しかった」

以前の会社を退職後、僕は日商簿記2級の資格を武器に就職活動を開始する。夢は税理士になって独立し、年収1千万円を稼ぐ事。

27歳の時だった。

しかし当時は、バブルが弾けてどこも不況の嵐が吹いていた。

当然その嵐は就職活動を難航させる事になった。
日商簿記2級の資格さえあれば、税理士事務所に入社するのは楽勝と思っていたのだが世間はそんなに甘くなかった。

この大不況のおかげと27歳という歳では、どの事務所も経験者しかいないと言うのだ。僕は人生2度目の大きな挫折を経験した。

もちろん、くじけず就活はした。電話帳に掲載されている税理士事務所へ片っ端から電話を掛けて、面接してもらえるように頼み込んだ。

しかし、その努力も報われないまま、ただ時が過ぎていくばかり。
ついに退職金も使い果たし、失業保険も後1ヶ月で打ちきりとなるそんな状況で出した答えがこれだ。

それは、自分の得意な事、好きな事をして仕事をする。

そう考えた時に、中学生のころ大好きだった器械体操を思い出した。
レギュラーにもなり、大会では入賞こそ逃したものの、チームで一番の成績を跳び箱（体操の世界では跳馬という）で叩きだした事もある。

「そうだ！体操を子供たちに教えたい」

もうこれしかない、と意気揚々と求人誌をかき集めて募集欄をくまなく探したのだ。

そうすると1つだけ“体操インストラクター募集”とあるではないか！！
さっそく電話を掛けると面接をしてもらえる事になった。

体操経験者と言うことで、めでたく就職が出来た。
雇用形態はアルバイトという位置づけだったが・・・

こうして子供たちに体操を教える仕事を開始する。
マット、鉄棒、跳び箱と3種類の種目を教えるだが
経験があった事もあり、仕事はどんどん覚える事が出来た。

子供からは、“タカ先生”と慕われ子供の親からも
慕われる存在となっていた。

1日に午前2回、午後に4レッスンあるのだが、そのうちの1レッスンの
チーフ（リーダー）をさせてもらう事も出来て充実した日々を
過ごす。

給料は、めちゃくちゃ安くて正社員並に働いても
手取りは10万ぐらいだった。

それでも、仕事が楽しいと思えたのは初めてだったので
好きな事で仕事が出来て、子供達や親に喜んでもらえるのが
何よりもうれしかった。

しかし数年後、体操の発表会（子供達の1年の成果を発表するイベント）で
先生達のデモンストレーションで、大技を見せるのだが、準備不足で
技を失敗してしまい、左足首の靱帯損傷という大怪我をしてしまう。

1ヶ月間、自宅待機をよぎなくされた。
その時、思ったのは怪我をしたら働けなくなり、収入もなくなる。

しかも体力勝負の仕事だから歳を重ねる事に指導するのも辛くなる。
将来性はないなと思った。

その後、復帰したものの職場の人間関係が悪化。

ある社員と意見の衝突が増え、またもや技の練習中に今度は両足首を捻挫してしまい、松葉杖を使わなくては歩けなくなってしまった。
また1ヶ月の休みを余儀なくされた。

この怪我の事もあり、このままでは体が持たない。と危機感を感じ
さらに自分のやりたい事も出来たので、退職。

新しい世界へと飛び立つ事になる。

このとき、まさか自分が大金を動かす仕事をする事になろうとは思ってもみなかった。

「容赦ない株の世界へようこそ」

体操教室を辞めた僕は、しばらくは自由な時間を楽しむ事にした。

31歳の時である。

起床は昼前。

お昼を簡単に済ませて、テレビを見てケラケラと笑ったり
愛犬を連れて、近所の河川敷へ散歩に行った。

柔らかいクッションのような土の上をゆっくりと
歩き、大地を噛みしめように散歩を続けた。

広大なグラウンドは全て繋げると東京ドーム1個分のほどの
大きさになり、その広さをふんだんに使ってフリスビーを
楽しんだり、愛犬と一緒に駆け回ったりもした。

川のすぐ近くまで車で入り、全てのドアを全開にして
車の中から、サラサラと小川のように流れる水の音に
耳を傾けながら目を閉じると小川が優しくこう語りかけて
くるように聞こえた。

「あなたは自由に生きていい。今のあなたは充分素敵な存在
だから無理をして、自分以外の者になろうとしなくてもいいの」

僕は自然の中に身を置きながら、少しずつ心と身体の元気を
取り戻していった。

透き通るように鮮やかな青色をした空を見上げると
そこには全身の力を全て抜いて自然体で優雅に浮かぶ雲が見えた。

真っ白の純白な色をした姿に思わず見入ってしまい
時間を忘れて、時を過ごした。

夕方になると、太陽が高度を少しずつ下げていくと同時に
黄色からオレンジそして赤色へと変化していく姿を眺めていた。
毎日、夕日を見ているとある事に気付いた。
1日として同じ夕日の光景はないのだ。

この夕日が見せてくれる自然の天体ショーは、たった1日限りの
自然からの大切な贈り物なのだ。全く同じ天体ショーは見られない。

自然の作り出す、夕日と雲の素晴らしいショーは良い意味で
鳥肌が立つほど感動し、思わず胸が熱くなりうれし涙が自然と溢れてきた。

生きているって、こんなにも幸せな事なのか！

自然が教えてくれる数々の出来事は僕の心と体を優しく包み込み、
愛という至上最高の癒やしでもてなしてくれたのだ。

人生で2度の大きな挫折。

技術社員失格の烙印を押され、体操教室では2度の怪我によって
心と身体はボロぞうきんのようにやつれ、所々に穴が開き
冷たい風が勢いよく吹いているかのようなだった。

疲れ果て、何もやる気が起きず、絶望と落胆の日々を過ごす毎日。

空前の灯火だった心を、卵のように“つるん”としたツヤと張り
そして桃のようにみずみずしく“ぷるん”とした健康な心に戻してくれたのが、
自然の存在だったわけだ。

とりわけ、自然と言うのは癒やしの達人であり、人生の先生でもあるとこのとき心の底から思った。

すっかり元気を取り戻した後、ある事がきっかけで株取引を始める事になる。

ちょうど株市場は、日経平均が下げ止まりを見せ、少しずつ回復を見せていた時期だった。父はそのチャンスを冷静に判断し僕に資金を託したのだ。

とは言っても株の知識は全くなかった。

どうやって株の取引をすれば良いか分からず、ネットや本を買い漁り必死になって勉強をした。チャートの見方や、専門用語の解説や取引全般のやり方、株の売り買いの仕方など・・・。

市場の流れが良い方向へと向かっていた事と、独学ではあるが勉強をしたおかげで、株取引を開始後わずか1ヶ月で10万円ほどの利益が出た。

特にこの年の年末には、海運株というものがのきなみ値上がりを見せ、あらかじめ仕込んでいた株たちは全て利益を出していた。

それに気を良くして、さらに株を買い増し翌年の春には40万円ほどの利益を出すまでになった。

このように良いタイミングで市場に参入をして、ほんの少しの勇氣と資金で、資産はどんどん増えていった。

1日に10万円の利益が出た時もあった。

さらに利益を狙うために、デイトレードという乱高下の激しいある意味、ギャンブル的な取引にも参入。

たったの数分で2万、3万円の利益が出た時は、お金に対する感覚というか金銭感覚が麻痺していった。

そんな麻痺状態に気付かずに、調子に乗って取引を始めたころ損が出始めた。独断で決めた株の動きが激し過ぎて、一瞬で1万、2万と損をだし、あげくの果てわずか10分で10万円を損した事もあった。

そんな激しい値動きの取引を、ずっと続けられるほどの度胸はなかったので、さっさと撤退し、通常の株取引へと戻ることにした。

その後、棒有名企業の株を30万円ほど買った。

今はもう存在しない会社だが、その株が大当たりをして連日、高値を更新し続け、画面上では100万円利益を出していた。たった数日であつという間に、3倍ほどの利益に僕は天狗になった。

しかし・・・

人間の欲というのは恐ろしいもので、まだまだ上がると思い込んでしまい、冷静な判断が出来なくなり結局利益を確定する事なく損をしてしまった。

数年続いた株取引の生活だったが、損をする事が多くなり以前ほどの意欲もなくなっていき撤退を決めた。

市場と言うのは、残酷なもので情け容赦なく値段が上下に動く。

この動きが上がれば良いのだが、下がった時の何とも言えない心がぎゅっと締め付けられる気持ちは、かなり気持ち悪く嫌な気分になる。

「雇われる事の真の恐ろしさを知る」

株取引から撤退をした後、様々な職を転々とした。

バイクリコールの修理や介護浴槽の組み立て工場、
パン屋のバイト、そしてバイク修理の仕事など。

特にバイク修理の仕事は、過酷を遙かに通り超して地獄だった。
生き地獄とは、まさにこういう事を言うのだろう！

朝9時から夜の9時すぎまで1日12時間以上働いて
1ヶ月の休みはたった4日だけ。
連休と言えは盆休みと正月休みが3日ずつあるだけの過酷な労働環境だった。
これだけ働いても手取りは20万もあれば良いほうだった。

社長の言う事には絶対に逆らえない。
例え社長が間違っていたとしてもだ！

ここの社員たちは、社長の前では良い顔をしてニコニコし
社長が居なくなると我先と社長の文句を言い続けた。

毎日、馬車馬のように働かされる。
朝一から売り物のバイクを店頭に並べるわけだが、
新車だから傷つけてはいけないし
かと言って丁寧に並べていたら、時間がかかって叱られる。

教えられた通りに並べても、日によって並べ方のルールが
社長の気分次第で変わるから、言う事がバラバラだから混乱した。
朝から、足は棒のようになり時期は夏だった事もあり
洪水のような汗を掻きながら、この過酷な労働に耐えた。

社長は気分の浮き沈みが激しく、極端に優しい時と裏を返したように突然、怒り出す事もしばしばあった。

それは僕に対してだけではなく、全社員に対してだったが社員たちは、自分が間違ってもいないのに怒りをぶちまけられ平気な顔をして社長のお説教を延々と聞かされていた。

時には、暴力を振るわれる事も度々あった。

でもこの社員たちは、社長の前では何も反論できずただ耐えるしかなかった。

僕が唯一、ほっ！と出来たのは各市役所へお使いに行かされた時だけ。バイクを登録するための書類を持っていき、そこでナンバーをもらってくる仕事だ。

この時は、店から離れられるので嬉しくたまらなかった。

ここで働いてみて最も、驚いたのは社員に2つの顔があることだ。お客様には笑顔で接し、ニコニコと営業スマイルでお客様は神様です！みたいに対応をしていた。

ところがお客さまが帰ったと同時に態度が一変。「あんなバイク、よく買うなあ、アホちゃうか！」

さっきまでお客様に対して、これ以上ない笑顔で丁寧に対応していた社員が、裏を返すかのような変貌ぶりに僕は失望した。

大切なお金を出して買ってくれるお客様を、汚い言葉で平気でけなし、あげくの果てに店の収入源になってくれるバイクをバカにして文句を言う。

さすがに、この言葉には言い表せないほどの怒りがわき上がってきたが、喉まで上がって来た怒りを僕は、ぐっ！と飲み込み我慢した。

バイク屋というのは、こういう世界なのか？

表向きは良くても、裏ではお客様や売り物であるバイクの文句をたらたらと平気で言い合う社員たち。

この人たちは、どんな思いで仕事をしているのだろうか？と思ったと同時にこの職場は心底恐ろしい所だと思った。

長時間の労働（１日１２時間は当たり前）に加え、手取りで２０万円も満たない給料、しかも１ヶ月の休みはたったの４日だけ。あげくにお客さまに対する態度の裏表を目の当たりにしてしまった。

彼らは社長にこき使われ、もはや人間とは思えなかった。

社長に都合の良いように使われるロボットのように見えてきた。この人たちは、何を楽しみに人生を生きているのだろうか？と真剣に悩んだ時もあった。

彼らの人生は、オイルの焦げた匂いとタイヤのゴムの匂いが漂う畳８畳と少しのスペースの中で、一度きりの人生が過ぎ去っていくのだと思った。

すでに人間である事を捨て社長の言う事を忠実に聞く召使いのようにも見えてきた。

僕はこんな風になりたくないと強烈に思った。

その３ヶ月、社長からの突然の解雇通告。

こんな事を言うのもなんだが、正直嬉しかった。もうあの地獄のような苦しみを味わなくもて良いと思うと心の荷が降りたように思えた。

２週間ほど、また自由を楽しんだ。

収入がないと言うのと、お金が減っていく恐怖はあったが
それよりも、自由になる時間が手に入った事のほうが嬉しかった。
この経験による後遺症が残った。

しばらくは、バイク屋に対する不信感が消えることなく残り
バイク屋に行くのが怖くて仕方なかった。

今では、全てのバイク屋がこうではないと思えるようになり
店に行く事も出来るようになった。

あのバイク屋を除いてだが・・・

この経験も、幸いにも良い思い出として心に残っている。

「自由への入り口と素敵なサプライズ」

株取引をしながら生活をしていたある日の事。
ふとテレビを見ようとリモコンを手に取り電源ボタンを押した。

テレビの画面に映し出されていたのはロシアの女性ヒーラー。

遠く離れた病人をヒーリングの力で治すという番組だった。
まさか、この後、僕も同じような事が出来るようになるとは
全く想像していなかったが・・・

ロシアの女性ヒーラーは、静かに目を閉じ呼吸を整えなにやら
ぶつぶつと言っていた。
おそらくヒーリング開始の決められた言葉だろう。

ヒーリングをしてもらう人は、1,000 kmほど離れたところに居る。
そんなに離れていて病気が治せるのだろうか？と不思議に思い
テレビに夢中になった。

女性ヒーラーは、目を閉じながら両手を上下にゆっくりと動かしながら
エネルギーらしきものを送っているように見えた。

結局、ヒーリングを受けた人の病気は完治したらしく
顔色がヒーリングを受ける前と後では随分と違っていた。

こんな事が出来る人が、世の中には居るんだと感心し
さっそくインターネットでヒーリングについて調べてみた。
そして「レイキヒーリング」という言葉を始めて知る事になる。
このレイキが僕の人生を変えた。

レイキヒーリングは、すでにレイキが出来る人から伝授してもらうと
先ほどの女性ヒーラーのように遠く離れた人の病気を改善したり

人の心を癒やしたり、元気に出来る事を知った。

＊厳密にはレイキは治療ではない。医師の資格がないと治療と呼んではいけないそうなので、“改善”という言葉を使わせてもらった。

僕はレイキを伝授してもらおうべく。さっそくネットで信頼できる人を探して、伝授を受けた。

この人は、靈感が鋭く本来見えないものまで、全て見えてしまうらしい。僕の心の中を全て見られるのではと緊張したが、そんな事もなく無事に伝授してもらった事ができた。

伝授は電話で行なわれ、その後 21 日間の浄化期間を得て、晴れてレイキが使えるようになった。

その時、レイキを伝授してもらった人からある意外な事実を知ることになる。

こんな事を言われたのだ。

「タカさん！あなたはカードを使ったリーディングをする才能があります」

それを聞いて、少し嬉しかった。

なぜなら“天使の絵が描かれているカード”にとっても興味があったからだ。

＊カードを使ったリーディングとは、カードから直接メッセージを受け取り、それを依頼者に伝えるもので、タロットカードや占いとはまた別のものとなる。

才能があると言われ、さっそく前から気になっていた天使のカードをネットで購入し毎日、カードを引いては付属のガイドブックを見ながら天使からのメッセージを読み癒やされていた。

この癒やされる気持ちは何とも言えない幸せな気分になり

こんな素敵な事を独り占めしてはもったいないと思い

自身のブログに、その事を書いたり、時にはカードの写真を載せてガイドブックのメッセージを載せていた。

そんな事をしているうちに、ガイドブックのメッセージが物足りなくなったのだ。

もっと僕の質問にピンポイントで答えてくれるメッセージが欲しいと思うようになった。

そこで、天使の描かれているカードをじっと見ていたらある日を境に、なんとなくカードがしゃべっているような気がして最初は驚いたが、それをメモするようになった。

そのメッセージは、僕を励まし温かい気持ちにしてくれる素敵なものばかりだった。

日増しに、気持ちが明るくなり幸せな気持ちになっていった。

カードから直接メッセージをもらうほうがガイドブックの時に感じた幸せな気持ちより、何十倍もの幸せが僕の体を優しく包んでくれた。

何とも言えない素晴らしい心地良さだった。言葉では言い表せないほどの幸せが僕の体中に広がっていった。まるで宙に浮いているかのような、高揚感を感じていた。

ただここに、居るだけで幸せ。

あらゆるものに自然と感謝の気持ちが沸き出てきたのだ。

まさに“天使マジック”である。

そんな出来事を正直に感じたままをブログに書いていたら、某有名サイキックヒーラーさんから天使さんからのメッセージが欲しいと言う依頼が来たのだ。

このヒーラーさんは、本を出版するほどの人だったし
霊能力もあり、スピの世界では有名な人だったので、僕で良いの？と
思いつつ、せっかくだからと天使のカードからメッセージをもらってみた。

そして、天使からもらったメッセージを正直にありのまま
メールに書いて送った。

翌日、驚いた事にメッセージに感動したと言う感謝の手紙をもらった。
かなり喜んでくれたらしく、ブログで僕の事を記事にしてくれたのだ。

そのおかげもあって、ヒーラーさんのブログを読んだ人からも
天使からのメッセージが欲しいという依頼が次々と来るようになった。

突然の出来事に僕は驚いたが1人1人、丁寧に天使のカードを
引いてメッセージをもらい、メールで伝えていった。

当時は、1回につき3,000円で依頼を受けていた。
月に3、4人、多い時は10人ほどの依頼が来るようになった。

最初はお金を頂く事に抵抗があったが、最初に受けてくれたヒーラーさんから、
エネルギーの交換だからお金はもらったほうが良いと言われたので
頂く事にした。

こうして月、1万円～3万円の収入が入るようになっていった。

この出来事は、僕の信じて来た今までの価値感を根底から揺るがすものだった。
今までの僕は、誰かに雇われてないとお金は決してもらえないと思っていた。

そして数ヶ月後、奇跡の連続で某有名サイキックヒーラーさんと
直接会う機会をもらい、“チャクラ・リーディング”を受けたのだ。

ここに到るまでの出来事は僕の配信しているメルマガをご覧ください。
⇒<https://1lejend.com/stepmail/kd.php?no=166758>

メールのみだった天使リーディングは、電話を通じて伝える事にもなり
料金も1万5千円を頂けるようになった。時には依頼者と直接会って
メッセージを伝える事もあった。

この金額設定も、最初は抵抗があった。
1回1時間で1万5千円。大卒の新入社員が1日8時間働いても
こんなにはもらえないだろう。

当時の僕にとっては、高すぎると思うほどの値段だった。
こんなに高くては、誰も受けてくれないと思った。

それをサイキックヒーラーさんに伝えたら、こんな風に言われたのだ。

「タカさんの行なう天使リーディングは本物だから、それだけの
お金を受け取る価値がある。この値段でも良いから受けたいと言って
くれる人だけにメッセージを届けてあげなさい」

本物と言われて、照れもしたが正直そう言ってもらえて嬉しかったし
これに満足することなく、依頼してくれる方に誠意を込めて対応し
喜んで頂けるように精進していこうと自分に誓った。

その後はヒーリングも始め、依頼をしてくれる方は天使リーディングと
遠隔ヒーリング合せて月あたり10人から多い時は20人ほどの方が
僕が行なっているメニューを受けてくださっている。
心からお礼の気持ちを伝えたいと思う。
ありがとうございます。感謝！！

実は隠れメニューと言うのも存在し、これは誰でも受けられるものではなく
ある条件を満たした方だけの特別なメニューとして、極一部の方へ
ご案内しているものだ。

ある条件とは・・・

- ・メルマガの購読者さんであること。
- ・メルマガ内のアンケートへの回答や感想をくれた方。
- ・一度でも天使リーディングを受けてくれた方。
(お気持ち価格・有料どちらかは問わない)
- ・メルマガ内に書かれている隠れメニューのヒントに興味・感心を持ちアンケートに答えてくださった方。
- ・僕のほうでエネルギーの状態を見させて頂き、受ける準備が出来ていると判断された方。

以上5つの条件のいずれかに相当する場合に
受けて頂けるメニューになっている。

準備が出来た方が隠れメニューを受けると、
一気に現実が良くなっていく。

あまりの現実の変化にびっくりされるだろう。

それほど、この隠れメニューはパワフルかつ効果のあるものだ。

ゆえに条件を設けているのは、例えば車の免許がない人が
無免許で車を運転すると危険を伴うのと似ている。

きちんとメルマガを読んで頂き自分なりのペースで
幸せへの道を進んで頂き、エネルギーの状態を整えていく。
車で言えば、運転に対する知識（学科）とワーク（実技）を
充分に行なってからでないと車が運転できないのと同じである。

この条件を満たした方は、運転免許を取得したようなものだと思ってもらえたらと思う。

ただし、ここまで貴重な時間を使って読んでくださったお礼として、
隠れメニューを受けてみたいと思って頂けたなら、
僕宛にお問い合わせ頂きたい。

ここまで読んでくださったあなたなら、エネルギーの状態は
だいぶ整っているのが分かるし、興味本位の軽い気持ちで
隠れメニューを知りたいとは思っていないと分かる。

今のあなたなら、隠れメニューを受ける権利があると
僕は自信を持って宣言させていただく！

お問い合わせは、こちらから可能です。
<https://1lejend.com/stepmail/kd.php?no=166988>

追伸☆

僕以外にも天使のメッセージを伝える事が出来る人は
沢山居るにも関わらず、僕からメッセージをもらいたいと
言ってくれる方が大勢いらっしゃるのは、非常に嬉しいし
幸せな気持ちでいっぱいになる。

この場を借りて心からお礼の言葉と感謝の気持ちをお届けしたい。
ありがとうございます。

天使からの素敵なサプライズに僕の心は喜び躍っているかのようだ。
幸せに全身が包まれ、さらにこの幸せはあなたへと伝染していくだろう。

そして・・・

つづく！

感想などはこちらからどうぞ。

<https://1lejend.com/stepmail/kd.php?no=166988>

タカより

天使ブログ：<http://ameblo.jp/patrick369>

天使のメルマガ：<https://1lejend.com/stepmail/kd.php?no=169317>